

設立当初の事業年度の事業計画書

法人成立の日から 2026 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人未来へ繋ぐこどもロボット・AI 教室

1 事業実施の方針

設立当初の事業年度は、代表者単独の運営により、以下の事業を確実に実施することを目標とする

- 恵まれない子どもたちにロボティクス教育を提供し、将来のキャリア機会への接続を促進する。まず野菊荘サポートセンターにて活動を開始し、年度内にさらに2つの施設へ展開、各施設週2回の指導体制を構築する。
- 運営の安定化と拡大のための資金調達計画を策定・実施する。
- 文部科学省の「初等中等教育におけるジェネレーティブ AI 活用ガイドライン (Ver. 2.0)」に準拠した子ども向け AI カリキュラムを開発する。
- 本法人の事業内容をより多くの市民に知っていただくため、ウェブサイトを立ち上げる。
- 翌年度からのボランティア導入に向けた基礎的な準備情報収集を行う。

2 事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定日時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
①子ども向け ロボティクス・AI 教育事業	<p>・野菊荘サポートセンターにて週1回のロボティクス・AI クラスを代表者が開始する。</p> <p>・年度内に新たに2施設へ展開し、野菊荘サポートセンターを含む計3施設で各週2回、合計週6回のクラスを代表者が提供する体制を整備する。</p> <p>・LEGO SPIKE キットを使用したハンズオン学習活動を行う(1レッスン4名対象)。</p> <p>・文部科学省の「初等中等教育におけるジェネレーティブ AI 活用ガイドライン (Ver. 2.0)」に準拠した子ども向け AI カリキュラム(8～14歳対象)を開発・実践する。</p>	<p>(A) 当初週1回、拡張後週6回(各施設週2回)</p> <p>(B) 野菊荘サポートセンター、および追加2施設</p> <p>(C) 1人(代表者)</p>	<p>(D) 社会経済的に恵まれない子ども</p> <p>(E) 当初週4人、拡張後週24人</p>	52

②ボランティア教師育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年度のボランティアプログラム本格導入に向けた情報収集、およびプログラム概要の検討を行う。 ・具体的な募集や研修は翌年度に実施する。 	(A) 随時 (B) 主たる事務所 (C) 1人（代表者）	(D) N/A (E) N/A	20
③AI とロボティクスの普及啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトを通じた情報発信、活動紹介資料の作成と配布。 ・小規模な体験会や説明会を必要に応じて開催する。 	(A) 随時、ウェブサイトは年度当初に立ち上げ (B) 主たる事務所、オンライン、その他必要に応じた場所 (C) 1人（代表者）	(D) STEM 教育に関心のある市民、潜在的な支援者 (E) 設定なし	18
④環境整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・初期活動及び事業拡大（計3施設）に対応するため、LEGO ロボティクスキットを2台購入する（平均5.5万円/台）。 ・AI 教育のための基本的な教材や機材を整備する。 ・法人活動の基盤となるウェブサイト構築し、情報発信体制を整備する。 	(A) 年度当初および事業拡大時 (B) 主たる事務所および各活動施設 (C) 1人（代表者）	(D) 当法人の教育プログラム参加者 (E) 週24人（拡張後）のプログラムに対応	125

年度の事業計画書

2026 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人未来へ繋ぐこどもロボット・AI 教室

1 事業実施の方針

前事業年度に確立した3施設での活動を基盤とし、以下の計画を確実に実施することを目標とする：

- 新たに3名のボランティア教師を受け入れ、指導体制を強化し、週合計12回のロボティクス・AI クラスを提供する。これにより、週約48名の子供たちへの教育機会を確保する。
- 既存3施設での活動を深化させるとともに、必要に応じて追加で1施設の展開も視野に入れ、より多くの子どもたちへのリーチを目指す。
- 生徒の継続的な学習意欲を促進するため、発展的なロボティクス・AI カリキュラムを作成し、導入する。
- デジタル学習プラットフォームの構築準備を進め、基本的な学習リソースの提供を目指す。
- ウェブサイトや広報資料を継続的に活用し、支援者や協力者との連携を強化する。
- 企業からのスポンサーシップ獲得や、大学等研究機関との連携も視野に入れ、活動の質と安定性を高める。

2 事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定日時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千 円)
①子ども向け ロボティクス・AI 教育事業	・既存の3施設において、代表者と新たに受け入れるボランティア教師3名の協力体制により、週合計12回のロボティクス ・AI クラスを提供する（例：各施設週4回、または需要に応じて施設数と回数を調整）。 ・社会経済的に恵まれない子どもたち（8～14歳対象）に対し、発展的カリキュラムを用いたハンズオン学習活動をLEGO SPIKE キット等を使用して行う。 ・年度末には生徒の学習成果を発表する「年間発表会」を開催する。 ・必要と判断された場合、第4の施設へプログラムを展開する準備を行う。	(A) 週12回（年間通して）および年間発表会（年度末） (B) 既存3活動施設、および必要に応じて追加1施設、年間発表会は京都市内の施設 (C) 4人（代表者1名、ボランティア教師3名、事務局職員がサポート）	(D) 社会経済的に恵まれない子ども (E) 週48人、年間発表会参加者・関係者含む	58.8

②ボランティア教師育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにボランティア教師3名を募集・選考し、当法人の教育理念や指導法に関する体系的な研修を実施する。 ・ボランティア教師の活動をサポートし、定期的なミーティングやスキルアップ研修を通じて指導の質を維持・向上させる。 ・明確な役割分担と責任体制のもと、ボランティアが活動しやすい環境を整備する。 	(A) 募集・選考（年度当初）、初期研修（随時）、定例ミーティング・研修（月1回程度） (B) 主たる事務所、各活動施設 (C) 1人（代表者）、事務局職員がサポート	(D) STEM教育や社会貢献に関心のある大学生や社会人 (E) 3名（育成対象ボランティア）	72
③AI とロボティクスの普及啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・AI・ロボティクス教育の重要性や当法人の活動内容について、より多くの市民や関係機関に理解を深めてもらうため、活動報告会や体験セミナーを年数回開催する。 ・支援者や関心を持つ層に向けて、定期的なニュースレターを発行し、活動状況や成果を報告する。 ・大学の研究パートナー等との連携により、当法人の教育プログラムの効果測定および成果評価に関する研究を実施する。参加児童の学習効果、社会的影響、長期的な進路への影響等を評価し、プログラム改善および対外的な活動報告に活用する。 	(A) セミナー・報告会（年2-3回）、ニュースレター（四半期ごと） (B) 京都市内の施設、オンライン、主たる事務所 (C) 1-2人（代表者、事務局職員、ボランティア協力）	(D) STEM教育に関心のある市民、企業、教育関係者、助成団体 (E) 各回 30-50人程度（セミナー等）、ニュースレター購読者	262
④環境整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・第4の施設へ展開する場合に備え、追加のLEGO ロボティクスキット（3台程度、平均5.5万円/台）を購入する。 ・生徒が基本的な学習リソースにアクセスできるよう、デジタル学習プラットフォームの開発・導入準備（コンテンツ企画、システム選定等）を進める。 ・ボランティア増加や活動拡大に伴う事務局体制の強化（情報管理、連絡体制等）を図る。 ・前年度に構築したウェブサイトを増強し、より充実した情報発信機能とユーザー体験の向上を図る。 ・生徒の自主学習を支援するため、動画レッスンを制作しYouTube および法人ウェブサイトで配信するデジタル学習プラットフォームを本格導入する。基本的な学習コンテンツから発展的な内容まで体系的に提供し、授業外での継続学習を促進する。 	(A) 随時（必要に応じてキット購入、プラットフォーム開発準備は通年） (B) 主たる事務所、追加施設（該当する場合） (C) 1-2人（代表者、事務局職員）	(D) 当法人の教育プログラム参加者、ボランティア教師 (E) 週48人のプログラムおよび組織運営に対応	275